

平成 22 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

「通所施設満足・意欲自己評価調査紙」の作成
 ～ICF に基づくりハビリサービスの主観的評価尺度～

学位の種類: 修士 (作業療法学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学系

学修番号 08896604

氏名: 後藤 典人

(指導教員名: 大嶋 伸雄 教授)

【はじめに】

本研究では第 1 研究として、パワーリハビリテーション (以下、パワーリハ) を実施している通所系サービスの利用者に対するリハビリテーション (機能訓練) サービス (以下、リハサービス) の質の評価をする事を目的に、満足、意欲という観点から、ICF の概念に基づいた調査紙「通所施設満足・意欲自己評価調査紙」を作成し、その妥当性と信頼性を検証し、第 2 研究として、通所系サービスにおけるリハサービスの質の評価として本調査紙にて調査を実施し、ICF の概念に基づいた分析の可能性を明らかにする。

【方法】

1 第 1 研究「通所施設満足・意欲自己評価調査紙」作成手順

1) 通所系サービスに勤務する専門家 5 名らにより「通所施設満足・意欲自己評価調査紙」試作版作成した。

2) 通所系サービスの利用者 21 名の対象者に試作版を実施し、その結果について因子分析を実施した。また同一の対象者に対し 2 週間の間隔をおいて再テスト法を実施し、試作版の内的一貫性を示す Chronbach の α 係数を求め信頼性を検討した。

3) 専門家 15 名により試作版の質問項目を ICF にもとづいて質問項目を 3 つの下位尺度に分けるため検討した。

4) 専門家 4 名の話し合いにより因子分析の結果と専門家 15 名による検討の結果を踏まえ、妥当性を検討した。

2 第 2 研究「通所施設満足・意欲自己評価調査紙」使用した調査

1) 北関東両毛地区のパワーリハを実施している通所系サービスの中から協力を得られた 4 施設にて実施された。

2) 調査対象 4 施設をセラピストの配置により 3 群に分類し、それぞれに質的な分析を試みた

【まとめ】

第 1 研究では、因子分析の結果と専門家 15 名の一致率の結果を踏まえ、専門家 4 名の話し合いにより妥当性が検証された。また信頼性については、再テスト法と Chronbach の α 係数が統計学的に優位な結果を得た。以上の結果から妥当性と信頼性が検証され、対象者のリハサービスの質に対する有用な評価手段として、また利用者の初期の援助計画を策定する際のコミュニケーションツール及び情報収集の手段として有効であるものと考えられた。第 2 研究では、3 群毎それぞれに特徴的な調査結果が得られた事で、各施設の調査結果の内容がそれぞれの施設で提供されているリハサービスについての状況を示していると考えられ、本調査紙を使用しそのデータを読み解く事で施設のリハサービスを通じての施設運営戦略や方向性を検討する評価法としても有用な手段の一つではないかと考えられた。